

## 刊行にあたって

著者が「歯科医師の、歯科医師による、歯科医師のための紛争解決」を志向した“あるべき”法務を求め、1989年に『歯科医院法務入門』\*<sup>1)</sup>を出版し26年余になります。同書の発行以前から先生方の相談相手として、先生方の紛争解決に30年余にわたり携わってきました。歯科医師をめぐる紛争を、社会的存在としての歯科医師の視点から分類すると「医療供給者としての歯科医師」「医院経営者としての歯科医師」「私人（個人）としての歯科医師」の紛争におおむね類型化できます。しかし、これらの紛争は常に相関関係にあり、医療過誤の問題が歯科医院の破綻の契機に、歯科衛生士らの雇用問題が医療過誤の事件の契機に、また夫婦（男女）関係の問題が医療過誤の事件の契機になるなど、その紛争は多様で複雑です。しかも、これらの紛争の副作用も非常に重大で深刻です。加えて、この30年余の間に医科・歯科ともに先端医療機器・設備の医療の発展は著しく、これと連動して歯科・医科学の知見・技術の進歩にも著しいものがあり、歯科医師のいわゆる医療水準も著しく高度化し、多様化しています。

他方、歯科医療経済も平成3年のバブル崩壊、リーマンショック以後現在に至る迄、長期不況を余儀なくされ、この間、平成13年の小泉内閣は構造改革を加速化させ、医療資源の効率化を大義名分とし、歯科医師と歯科医院のスクラップアンドビルド、医療のグローバル化と同時に先端医療の推進、そして少子高齢化の潮流のなか、医療資源の選択と集中を実行してきました。その手段として相次いで医療法、健康保険法、歯科医師法等の法令改正に着手し、現在もこれが進行中です。その過程において、今度は国民の医療人権\*<sup>2)</sup>と歯科医師の医療倫理の確立が国民的課題となっています。

この20年余のこれらの医療環境の変化は、歯科医師をめぐる紛争の量と質を大幅に変えました。この間、著者は先生方の医療紛争にかかわる傍ら『歯科医院の経営』\*<sup>3)</sup>にて「歯科医師をめぐる法的紛争の臨床例とその処方箋」「歯科医始末記」「DRC エクスプレス」\*<sup>4)</sup>等のテーマで、現在迄61回にわたり、医療紛争の臨床例と処方箋を発信してきました。

このたび、デンタルダイヤモンド社から、とくに本書にて先生方に「直近の歯科医院の紛争法務の臨床例と処方箋」の情報を“まとめて”発信すべきとの強い要請とご指導をいただきました。

そこで、著者において、とくに医療紛争のなかでも、主として平成20年以後の医療過誤の裁判例と、著者らが取扱った事例を中心に、“転ばぬ先の杖”として前記『歯科医院の経営』で出稿した原稿を一部加筆・訂正し、新たな原稿も追加しました。本書にて「歯科医師の、歯科医師による、歯科医師のための紛争解決」の実現に少しでも寄与できれば幸いです。

なお、本書の原稿については、前記『歯科医院の経営』で寄稿した原稿を参考に加筆・訂正、追加にあたって、当事務所の弁護士横山敏秀、弁護士丸山高人両名の執筆によるところが多そうです。

2016年3月 永松榮司

\* 1 1989年9月20日出版・クインテッセンス出版

\* 2 2013年9月27日出版「提言・患者の権利法大綱案（いのちと人間の尊厳を守る医療のために）」・日本弁護士連合会人権擁護委員会

\* 3 1987年7月～2016年2月出版・歯科医院経営研究会・季刊誌

\* 4 「DRC」とはDental Risk Controlの頭文字をとった略称